

手動式ラインテープ巻取機 2015年バージョン『軽る〜クル・巻き』が整いました！

1. 概要 硬式テニスを通じ、長年冬季においても室内の練習や大会を楽しんでおりましたが、京都北部の体育館はラインが設置していません、角に目印だけが有るので、その都度ラインテープを持参して貼って、プレーし終わると人界戦術でボールの缶やパイプ等に巻き取って指先がだるくなりながら時間と耐力を消耗しておりました。しかしこの経験と設計技術を生かし、この度、低価格の手動式ラインテープ巻取機（写真-1）を考案致しました。軽く、そしてクルクルと楽しく巻けるので、名付けて『軽る〜クル・巻き』
2. 効果
 - ①ラインテープをボールの缶やパイプ等に手でコネコネ回して巻くよりも、この巻取機を使用してクルクル巻取れば約5倍の速さで綺麗に、気持ち良くそして楽しく巻取ることができます。（サウスポーでも同じように巻けます。）
 - ②出来るだけ、再利用性の高いビニール系のラインテープ（テープ幅は、約6cmまで巻取可能）を使用して戴き、この巻取機で効率良く何回も巻取ることによってラインテープのコストダウンに繋がります。（紙テープを使い捨てるよりも地球に優しくなる。）
 - ③ラインテープを少人数で速く巻取ることが可能となるので、その分練習や試合の時間として長くプレーを楽しむことができます。
 - ④テニス競技だけではなく、バトミントン、ソフトバレー、フットサルそしてバスケットボール等でもラインが設置していない板場の体育館であればスポーツを問わず使用することができます。
 - ⑤この巻取機は、軽い衝撃を与えても、約1mの高さから落としたりとしても、破損することは無い材質を使用しております。
3. 構成 ①このラインテープ巻取機は、写真-2で示すようにティー形取手付フランジ部と回転ツマミ付フランジ部と、ラインテープを巻く巻取用パイプの3つで構成されております。
4. 使用法
 - ①このラインテープ巻取機を開放するには、両側のフランジを持って（フランジ部の穴に指を入れて回しても良い）左回転（時計と反対回転）で約5回転させると内部の連結ネジが解け、ティー形取手付フランジ部とツマミ付フランジ部とラインテープを巻くパイプ部に簡単に分解することができます。新しいパイプと交換するときに、このように分解します。
 - ②組立てる時は、写真-3のようにティー取手側のフランジの穴に人差し指を通し、親指と人差し指でパイプを掴みながら、フランジの段付きリング部の中にパイプをセットしておき、右手で回転ツマミ付フランジを持って穴から内部連結ネジ部を見ながら、ツマミ付フランジ側を右回転（時計回り）させることで、ネジとナット部を連結させてパイプを両フランジで挟み込んで固定することができます。（両フランジでパイプをあまり強く固定しなくても良いが、ラインテープを巻く時にパイプが空回りしない程度に固定して下さい。）
 - ③巻取る準備が出来ると、写真-4のように巻取るテープの端部をパイプの上から貼り（接着部が下）右手で回転ツマミを左回転で軽く回せば、簡単にラインテープを巻取ることができます。ここで綺麗に巻取るにはラインテープを剥がしながら巻くのではなく、巻取機を上に乗せて床からラインテープを剥がした後にそのテンションを体で前進して調節しながら、一定の程良いテンションで巻けば速く綺麗に巻くことが可能です。調度釣りのトローリングをしていて、大物がヒットしてリールを巻取るような感じで、竿を立てて引き込む動作とリールを巻取る動作を決して同時にせず交互にすれば、ぶれずにスピーディーに巻取ることが出来ます。
 - ④ラインテープの接着部を上向きにして巻くことも可能で、剥がしたテープの端部をパイプの下側に張って、ツマミを持って右回転に回せばターンしたテープを剥がしながら巻取することも出来ます。
 - ⑤以上の2種類どちらかの巻取り方法でラインテープを巻取って戴き、パイプの径が大きくなれば前項①の操作で両フランジを開放して新しい巻取用パイプと交換することにより、同じように巻取り作業を継続することができます。

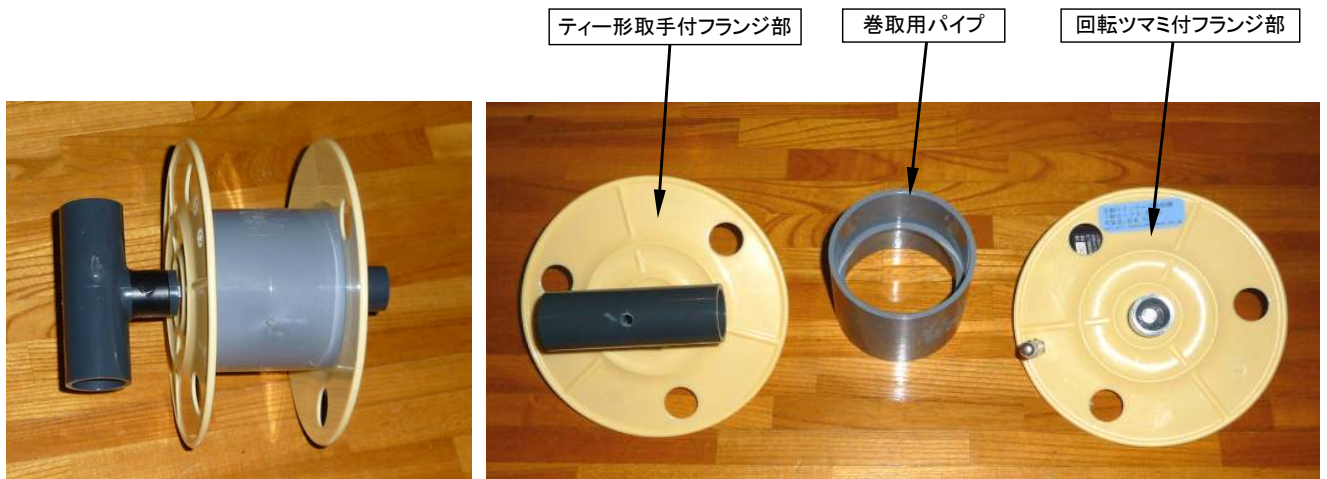


写真-1（手動式ラインテープ巻取機）

写真-2（巻取機の構成部品：開放状態）

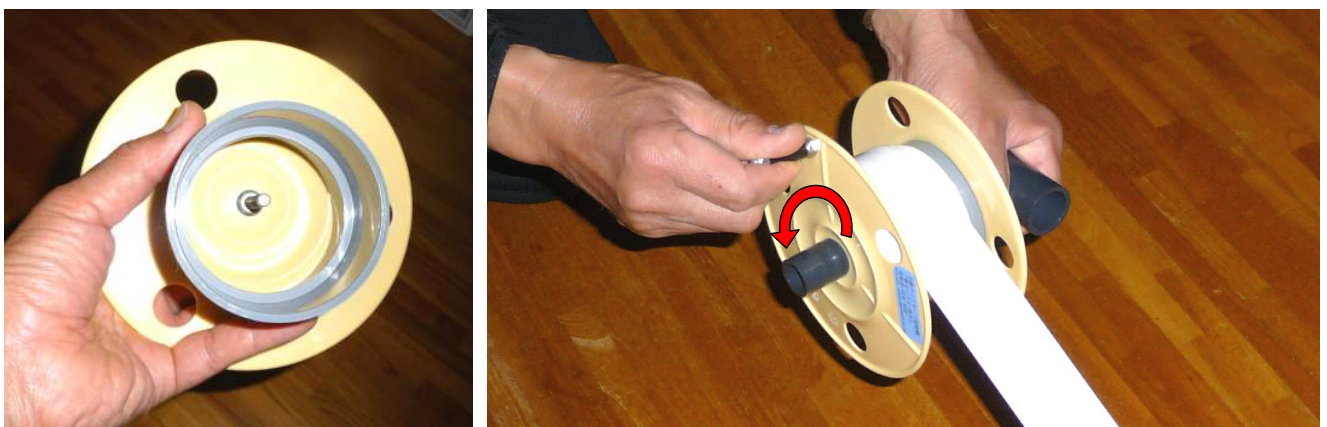


写真-3（巻取用パイプの交換状態）

写真-4（左回転でラインテープを巻取っている状態）

本体価格：1,800円（巻取用パイプは1個：100円）

考案者：有本 和彦テニスコーチ (TEL：090-9701-5777)

PCメールアドレス：arimoto.k-tennis@zeus.eonet.ne.jp